

森を育てる会主催 第1回勉強会 報告 カブ森の森づくりを考える

講師：朝廣和夫先生（九州芸術工科大学環境設計学科助手）

日時：2001年3月10日（土）10時～16時

テーマ：カブ森レビュー（再調査）

構成：第1部／ワークショップ、第2部／講義、第3部／現地検証

森を育てる会主催で、会員対象に、カブ森の将来像にそった保安全管理の具体的方法について考える勉強会を開催しました。

会として初めての試みでしたが、講師の朝廣先生には、詳細な分析資料などを始め、森会の現状を良く把握いただいた上での内容濃いご指導をいただきました。

なお、この勉強会は（財）森と緑のまちづくり協会の助成を受けておこなったものです。

〈文責・森（順）〉

第1部／ワークショップ

目的：これまで森会ではWS等で「活動に対する思い」を共有する作業を重ねてきたが、日々の活動でその思いが、どのように実践されているかを再検証する。

方法：①森会活動メニューと実施場所の洗いだし作業として、これまでの活動プログラム（草刈、キャンプ、落ち葉焚き…）をポストイットに書き、森会活動フィールド地図の、活動が実施された場所にはっていく。

②参加者を3班に分け、各班とも模造紙に森会活動フィールド地図を描く。班別にテーマ（森会の思い／1班：自然と親しむ・生き物について知る、2班：仲間と語らう・心や体を癒す、3班：社会や環境に役立つ・子供や大人に伝える）を担当し、テーマにかなった活動プログラムを地図の実施場所に書き込んでいく。

③別の模造紙に、テーマごとに洗い出した活動内容を、これからどうしたいか、何をやりたいかという視点で整理する。

検証結果：様々な会員のニーズに応える活動プログラムが広範多岐に渡り実施されていることがわかった。会全体として少し整理していく必要があるのではないか。調査については、会の目的にそった様々な調査方法（テーマ設定）があると思われる。また、特定の知識や情報を蓄積していくことが大切。仲間との語らいは会の求心力になっている。社会課題に応える役割としては、活動を言語化し、社会的評価を得る努力が必要。特に資金が必要なことなどをPRし、社会に働きかける姿勢も必要では。



第2部／講義

①クヌギの幹直径生長調査データの解説（資料参照）

森会では95年より春と秋の年2回、クヌギの幹直径の生長と、林床植生の調査を行ってきた。調査は10m四方に区切ったコドラートA（草刈を実施）とB（草刈を行わない）で、草刈の有無が林床植生に与える影響とクヌギの生長に与える影響を調べる目的で行ってきた。

林床植物の植生調査は、99年秋まで実施し、草刈を行なった方が種組成が多様になる傾向が見られた。

しかしクヌギの幹直径の生長については、コドラートAとBではクヌギの立木本数に違いがあり、照度にも差があるなど調査条件に差があった。幹直径は、立木密度、樹冠幅などの光合成のされる葉面積に強く影響されるため、この調査ではクヌギの生長率の差の要因を草刈の有無に求めることはできないと判断される。

しかし、これまでの調査データから、4年間に渡るクヌギの生長過程が観察できる。幹直径9cmを境に生長優良木と不良木に分けられる傾向が見られる。9cm以上を優良木とすると、コドラートAは6割、Bは4割。

クヌギは遺伝子のばらつきが大きく遺伝的要素が生長力や環境適応力の差として、生長優良木と不良木とに分ける。今後の管理としては生長過程の健全な樹木や、形状の良い樹木を残し、全体の立木配置を鑑みながら生長不良木を間伐してゆく必要がある。

②カブ森の管理活動について

森林構造の目標、森林調査の方向性など（資料参照）

第3部／フィールドワーク

カブ森の作業課題の洗い出し

(1) 森が暗い

- ・木が全体にうっそうとしているので、全体に枝打ちが必要。ルート沿いは特に必要性が高い。
- ・クヌギは年数を掛け徐々に間伐し、最終的には1/4程度に減らす。
- ・ユズリハとクヌギが競合している。ユズリハを間伐してはどうか。

(2) 荒れていて美観に欠ける

- ・放置されている支柱の片付け
- ・水路の周りが荒地のよう。ルートから水路が見えるように管理する。

(3) 人が利用しにくい

- ・入り口が分かりにくい。道に垂直に鋭角に降りる入り口は見逃しやすく入りにくい。
- ・入り口から先のルートが見えず、どこに続いているか分からず不安になる。また荒れた森が見通しを遮っている。
- ・道ぞいに植栽されているカイズカイブキが、ルートから森を遮断してしまっている。また、自然観をそこない、森とマッチしていない。
- ・東屋への入り口に踏み石を置くなどの配慮が必要。
- ・舗装されたルートに積もっている落ち葉などは掃くなどし、縁石をはっきりさせ、道をしっかりつける。
- ・ルート沿いの下草はしっかり刈る。斜面の上は粗放管理でも良い。



<勉強会を終えて>

森会では、これまでワークショップで、「森会の活動目的（思い）」→「カブ森の将来像」という順を追って会の共通認識を探ってきました。今回の勉強会はそのカブ森の将来像に沿った具体的管理作業計画を立てるための作業課題の洗い出しを目的として開催しました。本来なら保全のための調査を行ない中長期の保全計画を立てていくというのが保管理計画を立てる筋道ですが、今回は今ある作業課題の中から次年度の作業計画を立てるという方法をとることにし、朝廣先生に講師をお願いしました。朝廣先生は、森会の活動の経過を踏まえた上で、活動目的の確認など、会の現状に則した勉強会を企画下さいました。また詳細な資料をご提示頂くなど多くをご教授をいただきましたこと、心より御礼申し上げます。

なお、森会ではこの勉強会を踏まえ、H13年度のカブ森保全計画を作成しました。

森を育てる会 H13 年度カブ森保全計画案

3月10日に実施した森会主催勉強会「カブ森の森づくりを考える」で学習したことを参考に、4月21日に、本年度のカブ森のカブ森保全計画づくりミーティングをオプションとして実施しました。なお、この計画案は、5月のうん・えー会で審議後、スケジュール化していく予定です。
〈文責・森（順）〉

1. H13年度の作業目標

本年度は、撤去後林内に積んである支柱などの廃材処分や間伐材の整理、堆肥床の整備など、美観に配慮した保全を優先的に行なう。また、森を利用する人へ配慮した森づくりとして、ルート沿いの樹木の枝打ちを行ない、カブ森の入り口にルート案内板を掲示する。例年カブ森全域で行なっている草刈は、ルート沿いや平地面などで行ない、急斜面においては粗放管理とし、草刈を行わない。エリア別の保全目標としては、A地区は生き物のすみかづくりを目指し、C地区は今ある環境を生かした森づくりを行なう。

2. 作業内容と担当世話役（作業の優先順に列挙）

1) 支柱等の廃材処理及び堆肥床整備 《迫、原田》

- ・朽ちた間伐材の枯れ枝や枯れ木は飼育小屋に入れる
- ・間伐材の幹は、観察小屋の下に入れ、その他部分は堆肥ヤードに入れる
- ・朽ちた支柱等の廃材は集めて、林内の目立たない場所にまとめる
- ・新しい支柱は一部堆肥ヤードづくりに活用し、それ以外は林内から出す。堆肥ヤードは各エリアに1箇所ずつ作る。

（林内から出した廃材の処分について、要検討）

2) 案内板の設置 《柴戸、森》

- ・カブ森の入り口にカブ森のルート図と森会の活動主旨を紹介した看板を設置する

3) 草刈 《古川》

- ・草刈は林内整備の目的で、ルート沿いや平地面などで行ない、急斜面においては粗放管理とする
- ・選択的草刈を行ない、残す植物は事前にマーキングする（担当：柴戸、森）

4) 枝打ち 《田中、西村》

- ・ルートを覆い散策の阻害になっている枝や、他の木の成長を阻害している木の枝を、ルート沿いに落していく（枯れ枝落しを含む）

※カブ森保全管理の全体世話役を有田が行なう

3. 作業日程（案）（2001年/平成13年 5月～8月）

- | | |
|----------|--|
| 5月26日（土） | 樹木マップづくり、蝶のルートセンサス、クヌギの生長調査
A地区堆肥ヤードづくり |
| 6月3日（日） | 新規会員募集説明会
C地区堆肥ヤードづくり、草刈 |
| 6月23日（土） | 樹木マップづくり、蝶のルートセンサス、
草刈、枯れ枝処理、廃材処理 |
| 7月14日（土） | 樹木マップづくり、蝶のルートセンサス、枝打ち |
| 7月28日（土） | 草刈、廃材処理 |
| 8月4日（土） | 草刈、廃材処理 |
| 8月25日（土） | 廃材処理 |